

川べりの南地区は村と呼ばずに大塚町と呼ばれていました。現組長の西證寺本堂はこの大塚町にありました。地理的には現在ある本堂の東へ300m程のところにあつたと思えます。その移転については、当時内務省（現、国土交通省）も戦後の大変苦しい時代でしたので、一般の家には新築の予算を支出しましたが、本堂は高額の費用が必要のため移動させよとなり、本堂の床下に電車の車輪をつけて、レールを敷いて引導し、現在のところへ安置させました。

### 各寺報恩講日程

日程	曜日	寺院名	地区	時程	ご講師
9/29	土	西教寺	萩之庄	10時,14時	守 快信師
9/29	土	西教寺	春日町	14時,19時	堀川憲慧師
9/30	日	西教寺	春日町	9時半	〃
10/27	土	圓正寺	道鶴町	14時	未定
10/28	日	圓正寺	道鶴町	10時,14時	未定
11/3	祝	圓成寺	京口	14時	朝山大俊師
11/4	日	西法寺	東天川	10時,14時	石崎博敏師
11/9	金	西法寺	梶原	14時,19時	鳥羽正和師
11/17	土	久宝寺	大手町	13時,17時	齋藤真哉師
11/17	土	西應寺	大塚	14時,19時	宮部誓雅師
11/18	日	西應寺	大塚	14時	〃
11/18	日	久宝寺	大手町	10時	藤田哲史師
11/18	日	尊重寺	冠	10時,14時	足利孝之師
11/23	祝	普賢寺	須賀町	10時半,14時	朝山大俊師
11/23	祝	安楽寺	辻子	14時,19時	内本隆宏師
11/24	土	安楽寺	辻子	10時,14時	〃
11/24	土	法善寺	西冠	10時,14時	古山款夫師
12/1	土	正覚寺	野田	14時,19時	藤田哲史師
12/2	日	正覚寺	野田	10時,14時	〃
12/8	土	一念寺	下田部	10時,14時	能登 裕師
12/8	土	西證寺	大塚	14時,19時	未定
12/9	日	西證寺	大塚	14時	未定
12/22	土	善立寺	大塚	14時	小林顕英師
12/23	日	善立寺	大塚	14時	〃



### 『念仏者の生き方』

和顔愛語（わけんあいご）と少欲知足

法善寺 住職 辻本昭信

第二十五代専如ご門主は、伝灯奉告法要のご親教で『念仏者の生き方』について、「国の内外、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しくわかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人一人が行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。」とお示しいただいた。現代社会におけるエネルギーや環境問題、非戦平和の問題、差別や人権問題、経済格差の問題など様々な問題についても念仏者として無関心であってはならず、真剣に取り組んでいかななくてはならない。また、日々の生活の心得えとしてお示しいただいた「和顔愛語」や「少欲知足」の言葉を大切にしたい。「少欲知足」は、欲を少なくして足ることを知るといふ教えで、三毒の煩惱の一つである貪欲をおさえることが幸福につながる道であるとの教えである。

「和顔愛語」は、にこやかな顔と優しい言葉でもって他人に接することであり、互いに傷つけ合うことなく争いを避けることにつながる。親鸞聖人が「世の中 安穩なれ」と願われた平和の思想を表したものである。和顔愛語は仏説無量寿経の法蔵菩薩の四十八願のなか第三十三願「触光柔軟の願」（心身柔軟）がもととなつていてではないか。阿弥陀如来の智慧の光に照らされ、心身を柔らかにして、互いに仲良く安らかに生きるようにとの願いである。「心が柔らか」とは、心は言葉に表れるので優しい言葉を意味する（愛語）。また「身が柔らか」とは、身は顔の表情に表れるのでにこやかな顔を意味する（和顔）。

「和顔愛語」は本願寺の標語として現在、御影堂門に大きく掲げられている。この度の機縁で、我が家では二十年以上前に前住職が書いてくれた色紙を額に入れ掲示している。私たちは日々の生活の中で、心豊かに生きるため、南無阿弥陀仏の呼び声をいただいていることを有り難く受け止め、「和顔愛語」、「少欲知足」の言葉を大切に生きていきたい。



# 島上南組

## だより

浄土真宗本願寺派  
2018年(平成30年)7月  
第8号  
編集・発行  
高槻市大塚町西證寺内  
島上南組実践運動委員会

### 組長ごあいさつ

島上南組組長 尾崎貞良

梅雨空を割いて、夏の強い日差しが照りつける昨今、如何お過ごしでしょうか。

去る六月十八日午前七時五十八分に起こった大阪北部地震におきまして、五人の方がお亡くなりになりました。ご遺族、ご友人、ご関係のある方々には、突然の出来事に深い悲しみに暮れておられることと、衷心よりお悔やみ申し上げます。

また、家屋の損壊や焼失、塀の倒壊をはじめ、壁や瓦の崩落など多くの被害があり、自然の力の大きさを感ぜられました。常日頃、諸行無常の教えのとおり、この世の形あるものは、常に変化し増えたり、減ったり、壊れたり、なくなっていくものと

頭では解っていても、目の当たりにその惨状を見るにつけ、どうにもならないこの世のはかなさ、人間の力のなさを改めて思い知らされます。お釈迦さまは、苦悩の衆生を救いたいと願い、無常・迷いの世を示されました。自分中心に欲を出し、その欲が満たされないと言つては愚痴を言い、腹を立て、自分で自分を苦しめている悲しい姿を気づかせてくださいます。欲を控え、求める前にもう既に多くのいのちに支えられ生かされている喜びの中で、親から願われ育てられたこの命、阿弥陀という限りないいのちの親にまで頼め取られているという安心の中、いつ何時どうなるうとも大丈夫と言える人生を「南無阿弥陀仏」と生き抜かせて頂きましょう。

「はだかにて

生まれて来たに

何不足」

合掌

一月二十日(土)に島上南組新年互礼会が摂津峡花の里温泉「山水館」で南組各寺から一〇五名が参加して盛大に開かれまし  
た。今年の担当寺院は久宝寺でオープニン  
グは芥川高校の迫力ある和太鼓演奏で始  
まり、各寺院紹介、余興のフラダンス、中  
国の歌、カラオケ大会と賑やかに親睦を深  
めた二時間半でした。

三月二十八日(水)に島上南組一日研修  
が行われました。南組各寺の一〇六名で京  
都市内の本願寺第三代宗主覚如上人ご旧  
跡「本願寺西山別院」と真宗十派のひとつ  
「真宗佛光寺派 本山佛光寺」に参拝しま  
した。

参拝後は洛北鷹ヶ峰にある「しようざん  
リゾート京都」で昼食、嵐山を散策して帰  
路につきました。当日は良い天気恵まれ、  
訪れた寺、観光地はどこも桜が満開でした。  
その中で研修ができた他寺の門徒様との親睦  
も深まり、楽しい一日となりました。



佛光寺



芥川高校和太鼓部



西山別院



去る、六月十六日に高槻現代  
劇場にて「第31回仏教講演会」  
を開催しました。

今年は、講師にアメリカ出身  
の宗教学者、カール・ベツカー  
氏を招き「東洋の知恵に学ぶ癒  
し」という講題で講演いただき  
ました。

先生は、日本の文化、宗教に  
興味持ち、約四十年前に来日さ  
れ長年にわたり宗教学を研究  
されています。



誰もが直面する「死」への不安  
や恐怖、悲しみに対し、日本人が  
どのように向き合ってきたのか、  
また死者との繋がりを大切に想  
い、営んできた仏教的な習慣の大  
きな役割についてお話しいただき  
ました。プロジェクトで画像や  
動画も使われた先生の情熱溢れ  
るお話は、来場された方々にとっ  
て、とても分かりやすく充実感の  
ある講演会になりました。  
また来年も多くのご来場、お待  
ちしております。



### 地域探訪 大塚と淀川についてのよもやま話

善立寺 住職 奥野誠映

安に居て必ず危を忘るること勿れ(大塚「記念洪水碑」より)  
淀川が大阪湾に流れ出るところの大坂  
市西淀川区福町の淀川右岸の堤防に「大塚  
切れ洪水碑」という碑文が立っています

(画像①)。これは、大正六(1917)年十  
月一日に大塚町の堤防が台風による連日  
の大雨で決壊し、大塚堤防辺りの家並みは  
あつという間に押し流され、浸水は天神山  
際、安満、野田に及び、そして濁流は淀川  
と安威川から神崎川に囲まれた一帯に流  
れ込み、摂津と東淀川区淡路と淀川区の今  
の新大阪駅や阪急十三駅のあるところを  
飲み込んで最下流の西淀川区福町まで浸水し一ヶ月の間も溜まったままでした。

そして、淀川の水位の方が低くなってきた時、河口の堤防をわざと切って濁  
水を淀川の本流に返したのです。

この事を後世に、淀川右岸の皆に忘れない様にと、この福町の住民は、決壊  
した上流の大塚の地名を記して「大塚切れ洪水碑」を、わざと堤防を切って濁  
水を排水した自分の地域の堤防に建立しました。私たち「大塚村大字島上南組」  
の住民はこのことを知っておいてほしいものです。

大塚村での浸水では、善立寺の敷地は少し高かったため、濁水は本堂外陣の  
畳のところまで浸水したらしいです。そこに、村の農耕用の牛、十数頭が本堂  
へ逃れて来たとのことでした。

後になっての話ですが、復興後の拙寺報恩講や永代経法要には拙寺の門徒総  
代様たちは、「牛ですら本堂へ上がってお参りするのには門徒さんが本堂へ参らん  
と牛よりあかんで」と言われたとの面白い話が残っています。

さて、この淀川が決壊した際には淀川が大塚付近で急に川幅が狭く、しかも



画像①

直角に曲がっており水流が、枚方側に当たって  
カウンターパンチの様になるのも一因として、  
ゆるやかにすべきであるとの教訓により、昭和  
十五年から戦争中を経て、昭和二十三年頃まで  
直角の流れをゆるやかなカーブにするため、堤  
防を西の内陸部へ幅100mの移転を、長さ1350m  
に及び大塚引堤工事が行われました(画像②)。  
今、大塚町堤防にある「洪水記念碑」昭和五  
年、大塚村長、磯村彌右衛門氏建立(画像③)  
は、実際に決壊した場所の堤防(旧堤防)はな  
くなっていきますので、現在の堤防に決壊現場  
の平行移動地点と思われるところに建てられ  
ています。

新しい堤防が出来て、古い堤防を取り除くの  
に十年以上かかったと思いますが、その間、移  
転させられた家の方々は、懐かしさのあまり新  
旧堤防の間、もとあった自分の家跡に行つて  
畑をしていたのを私は覚えていいます。

その時、昔からの大塚村は、小字として、東  
ノ丁、堤、西ノ丁、木戸口、北ノ丁、南ノ丁と  
六つに区別されていきました。その内、東ノ丁と  
堤の大半の家が現在ある大塚神社の東横の南  
へ向かう真線道路より東側にあって、旧堤防に  
接していた家々は、約七〇戸が西の地域へ移転  
させられました。今、京阪バス大塚バス停の国  
道170号線より東へ向かう小川の桜並木の通りに並ぶ家は皆この該当の家々の一部  
です。

昔、豊臣秀吉の淀君が淀にいた時代には「秀吉の文祿堤」として、淀川には川と  
高い岸の仕切りがなく、淀川を往来する船や三十石船等と商売ができた大塚の



画像②



画像③